

インパクトをもたらす投資



目次



IFC概観

3

強固な
財務基盤

12

コア・
ビジネス・
ポートフォリオ

19

資金調達
プログラム

24

付属資料

41

連絡先

47

IFC概観



IFCとは



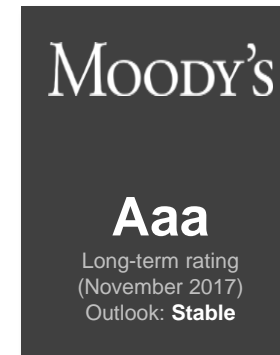
- 世界銀行グループの一員であり、民間セクター投融资を通じた開発促進を使命とする
- 184の加盟国
- 60年超にわたる新興市場の民間セクター向け投融资の提供
- 世界100カ国を超えるグローバルなプレゼンスと2,000社を超える民間セクター顧客との協働



比類なき立場の発行体



- AAA/Aaa格付け
- バーゼルフレームワークの下でリスクウェイトはゼロパーセント
- 資本金が全額払込済の国際機関
- 厚い自己資本: 純資産(資本金及び内部留保)がバランスシート(920億米ドル)の4分の1以上
- 設立以降、毎年度営業利益を計上
- 2018年度(FY18)の資金調達プログラムは170億米ドルを計画
- 125カ国に及ぶ多様なビジネスポートフォリオ

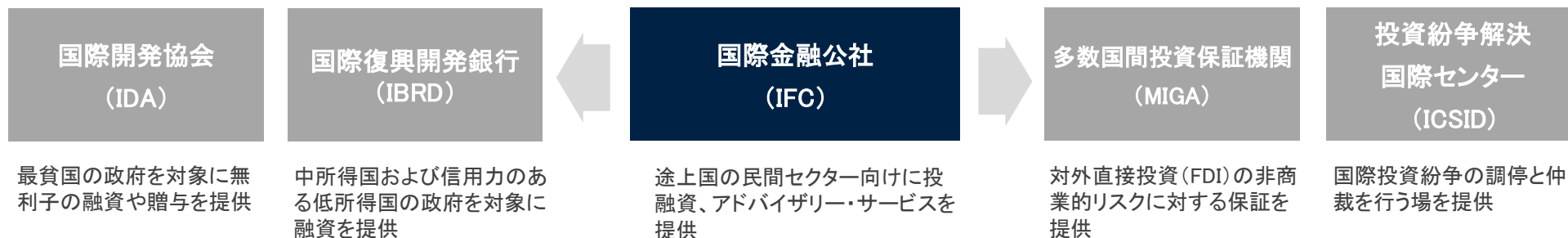


5つの組織、1つのグループ



世界銀行グループは2つの意欲的な目標を採択：

- **極度の貧困の撲滅**：1日1.90米ドル未満で生活する人々の割合を2030年までに世界の3%以下に減らす
- **繁栄の共有の促進**：開発途上国における所得下位40%の人々の所得増加を促進する



Issues Bonds under:
World Bank



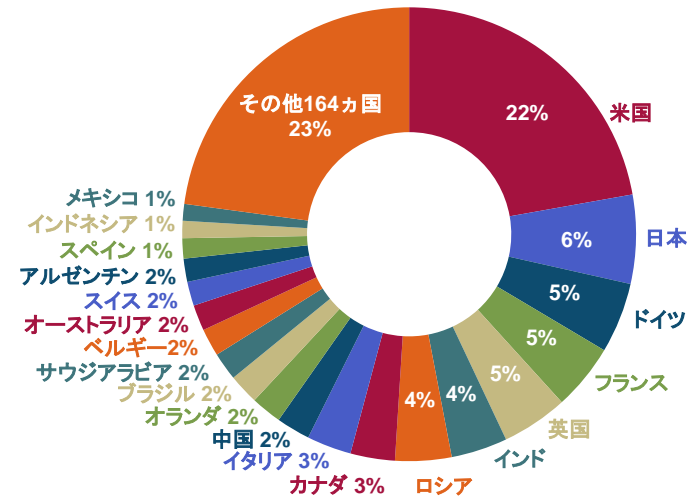
Issues Bonds under:
IFC



加盟国からの強力なサポート



- IFCは世銀グループに属し、独自の設立協定、バランスシート、職員を有する独立した機関
- **184の加盟国**: 株主は184カ国の加盟国政府
- 資本金の50%超をAAA/AA格の加盟国が出資
- 配当金支払不要、課税免除: 利益は加盟国のうち途上国への投資に振り向ける



184カ国の加盟国に支援された大変
強固なフランチャイズと60年に亘る実
績。大半の国際機関と比較しても、比
類なく多様な政府株主構成

スタンダード&プアーズ | 2017年6月
27日

IFC株主の信用力はIFC設立以来非
常に高い水準を維持してきた。

ムーディーズ | 2017年11月29日

IFCの業務



投融資

- ・ローン
- ・株式投資
- ・貿易およびコモディティ金融
- ・シンジケーション
- ・金融派生商品(デリバティブ)およびストラクチャード・ファイナンス
- ・ブレンド型金融

FY17は193億米ドルを承認
承認済ポートフォリオは550億米ドル

助言

- ・金融セクター
- ・投資環境
- ・官民パートナーシップ(PPP)
- ・アグリビジネス
- ・エネルギー・資源効率性

年間の助言業務からの収入は
2億米ドル超

IFC アセットマネジメント社

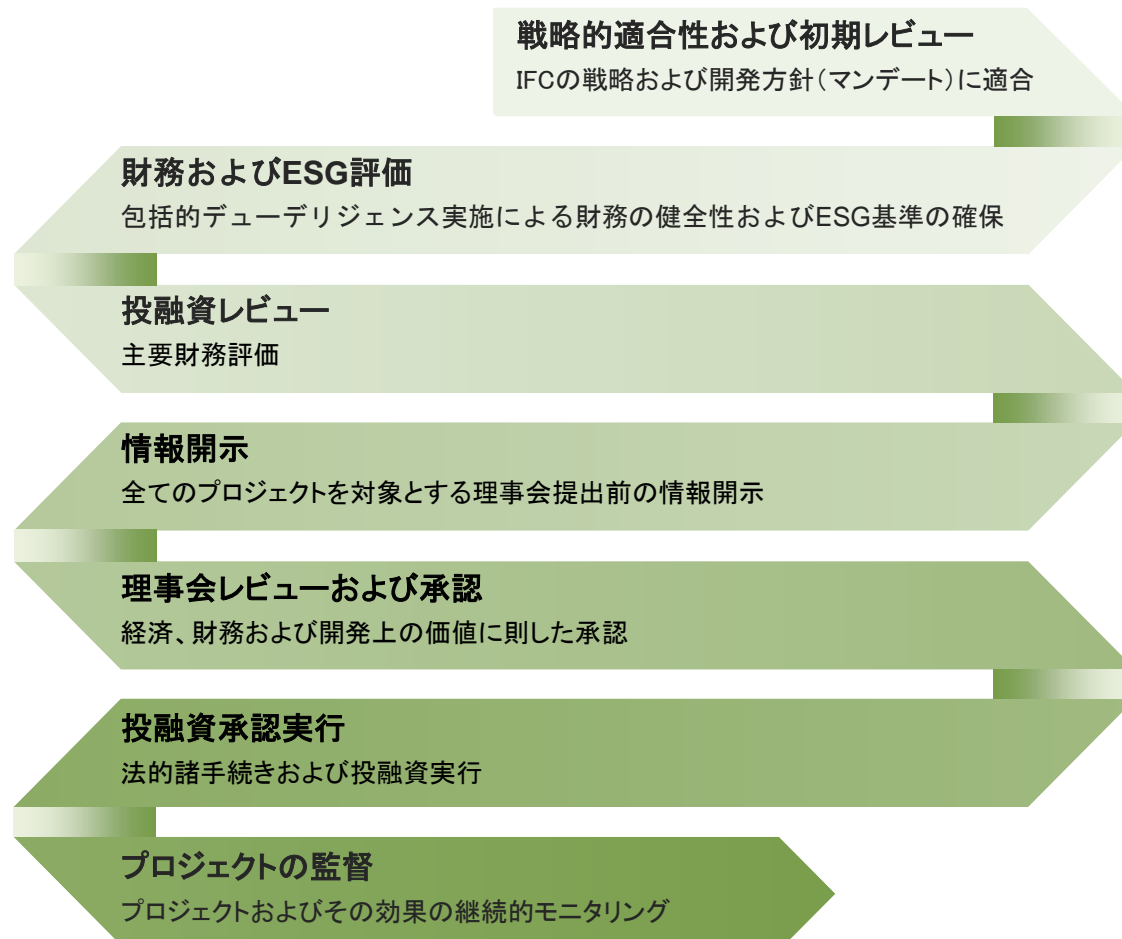
- ・投資のための資本動員および運用管理
- ・PE形式で第三者資本を民間株式に投資

13のファンドを運営、
運用資産規模は98億米ドル

投融資プロジェクトサイクル



IFCは十分な経済収益性と開発効果を目指す生産性の高い民間企業に投資



持続可能性: IFCのミッションの中核、顧客の成功に必要なこと



IFCがファイナンスを提供するすべてのプロジェクトは透明性と説明責任に焦点を合わせた厳格な環境・社会配慮要件を遵守することが求められる。

達成基準は以下をカバーしている。

環境、社会リスクおよびその影響の評価・管理



地域社会、保健衛生、安全および保障



労働及び労働条件



土地取得および非自発的再定住



生物天然資源の生物多様性維持および持続可能な管理



文化的遺産



資源効率性および公害防止



先住民



IFCの開発効果



開発効果は年ベースで測定。2016年にはIFCの民間セクター顧客が全体として以下の各項目を提供。



2.4
百万人の雇用



電力、水道、ガスの供給
178
百万超の利用者へ

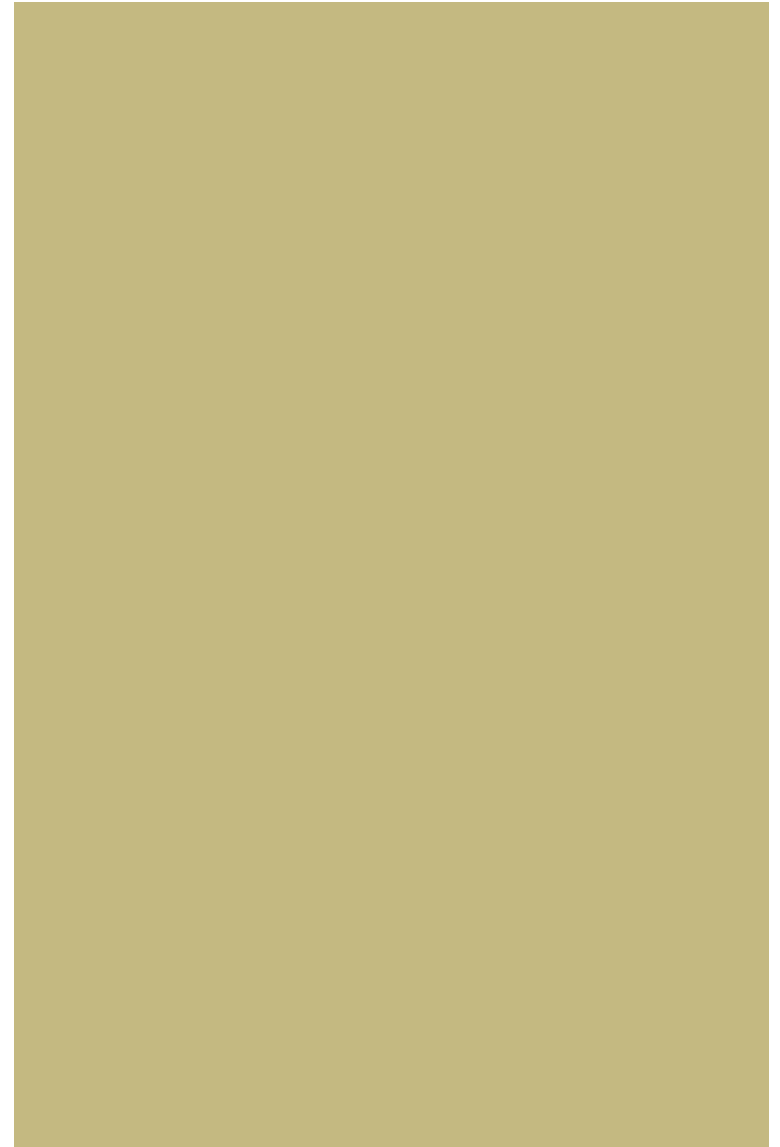


医療
34
百万人の患者へ



教育
4.9
百万人の生徒へ

強固な財務基盤



保守的なバランスシート



資産	
正味流動資産	39.2
投融資 (準備金18億米ドルを除く)	40.5
正味貸付金	22.5
株式投資	13.5
債券	4.5
その他資産	12.5
資産合計	92.3

負債・資本	
借入金	54.1
その他負債	13.1
純資産(自己資本)	25.1
払込済資本	2.6
内部留保、その他	22.5
負債・資本合計	92.3

IFCとトリプルA国際機関の比較表



	IFC International Finance Corporation	IBRD International Bank for Reconstruction and Development	IADB Inter-American Development Bank	ADB Asian Development Bank	AfDB African Development Bank	EBRD European Bank for Reconstruction and Development	EIB European Investment Bank
Business	Lends and invests equity in private enterprises in developing countries	Provides loans to public sector in developing countries	Development bank for Latin American and Caribbean economies	Fosters economic development and cooperation in the Asia Pacific region	Invests and lends to development projects in Africa	Development bank which lends to Eastern and Central European economies	Help finance balanced economic development in EU states
Ownership	184 member countries	188 member countries	48 member countries, consisting of Latin America and OECD countries	67 member countries, of which 23 are OECD countries holding 64.6% of total	54 African member countries and 25 non-African member countries	66 members – 64 countries, the EU and the EIB	28 member states of the EU
Total Assets (USD billions)	\$92	\$406	\$81	\$126	\$41	\$62	\$634
Liquidity Liquid Assets / Total Assets	42%	17%	34%	21%	40%	43%	15%
Leverage Total Liabilities / Total Liabilities + Shareholders' Equity (excluding callable capital)	73%	90%	68%	86%	69%	68%	85%
Total Shareholders Equity	\$25	\$40	\$27	\$17	\$9	\$17	\$73
Paid-in capital as % of total capital	100%	6%	4%	5%	6%	27%	9%
Net income before transfers (USD millions)	\$1,523	\$260	\$848	\$7	\$161	\$1,036	\$3,005

Source: Crédit Agricole CIB. Audited financial statements of each institution as of 31 December 2016, except for IFC and IBRD, where audited financial statements as of 30 June 2017 were used.

Figures for AfDB (in UA) were translated into US dollars using year-end exchange rate of 1UA= \$1.43 and average exchange rate of 1UA=\$1.43

Figures for EBRD and EIB (reported in EUR) were translated into US dollars using year-end exchange rate of €1 = \$1.11 and average exchange rate of €1 = \$1.05.

強固なファンダメンタルズ



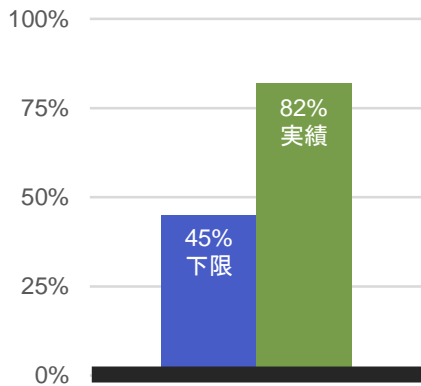
IFCは慎重な財務規律を実行

- IFCは国際機関の中でレバレッジ比率が最も低い機関の一つ
- IFCの株式投資は借入金ではなく純資産を使って行われる

リスク調整済資本比率(23%)や他の国際機関を上回る高い流動性比率が示すように、極めて強固な財務プロファイルを有する。

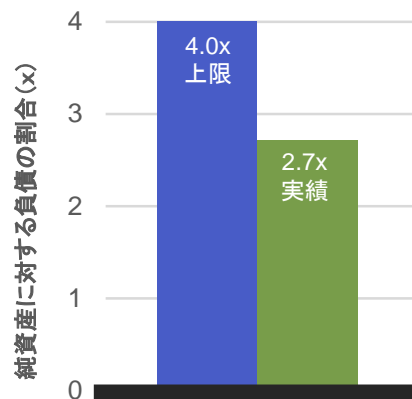
スタンダード&プアーズ| 2017年6月27日

流動性比率

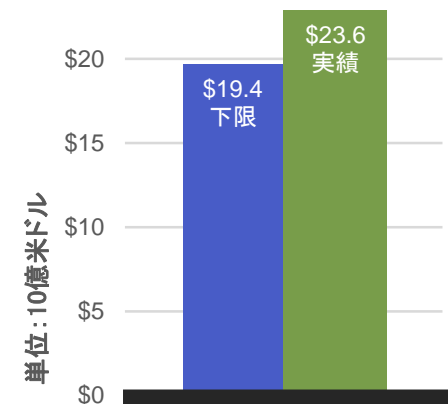


(向こう3年間の正味現金需要想定額に対する割合)

レバレッジ



リスク調整済資本



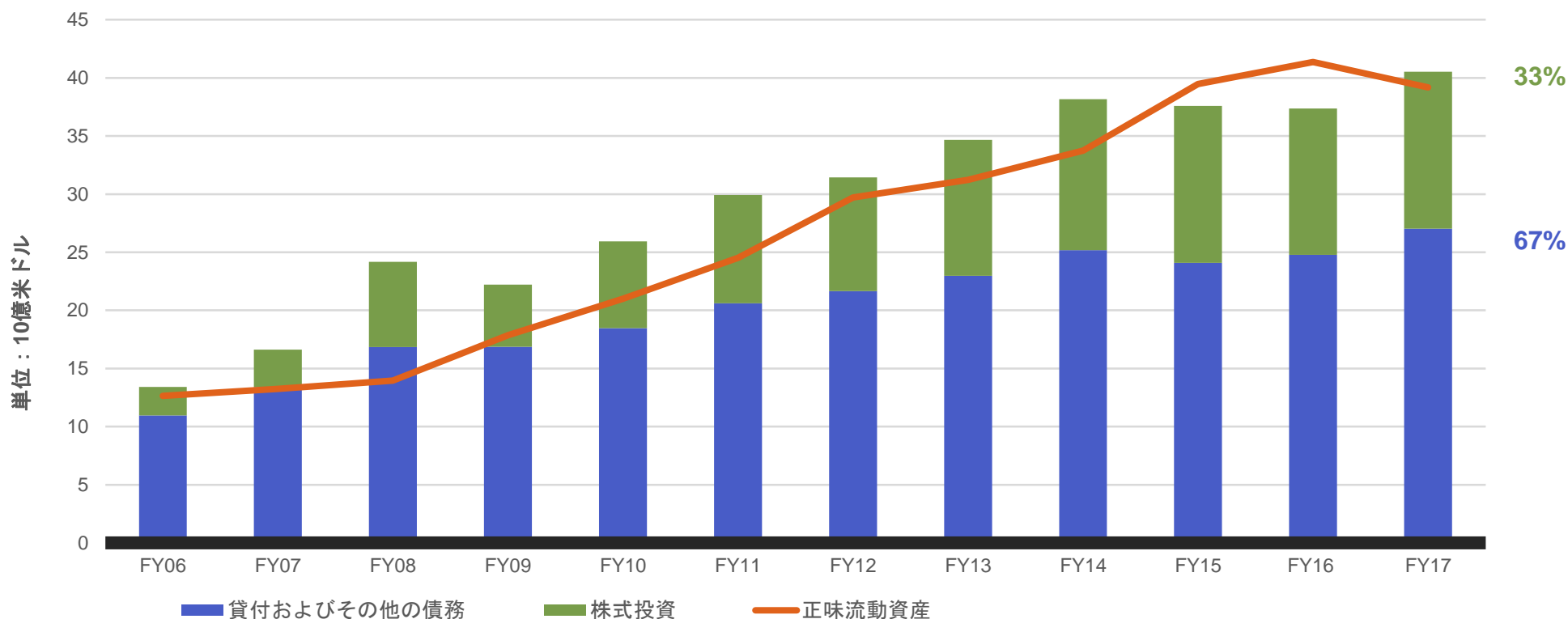
単位: 10億米ドル

資産の継続的な拡大



IFCの成長はそのほとんどが内部留保により賄われている。

IFCの実行済投融资額および正味流動資産（各会計年度末）



高い流動性



392億米ドルの正味流動資産

総資産の42%に相当

プロアクティブな投資アプローチ

資本保全にフォーカス

質の高い流動資産への投資

政府あるいは政府保証付債券や国際機関、高格付企業が発行する債券

ABS／MBSや預金も対象

マーケットリスクをヘッジ

主に通貨・金利スワップ、金融先物を中心としたデリバティブを用いてヘッジ

分散

複数の市場にまたがる分散により好リスクリターン・プロファイルを確保

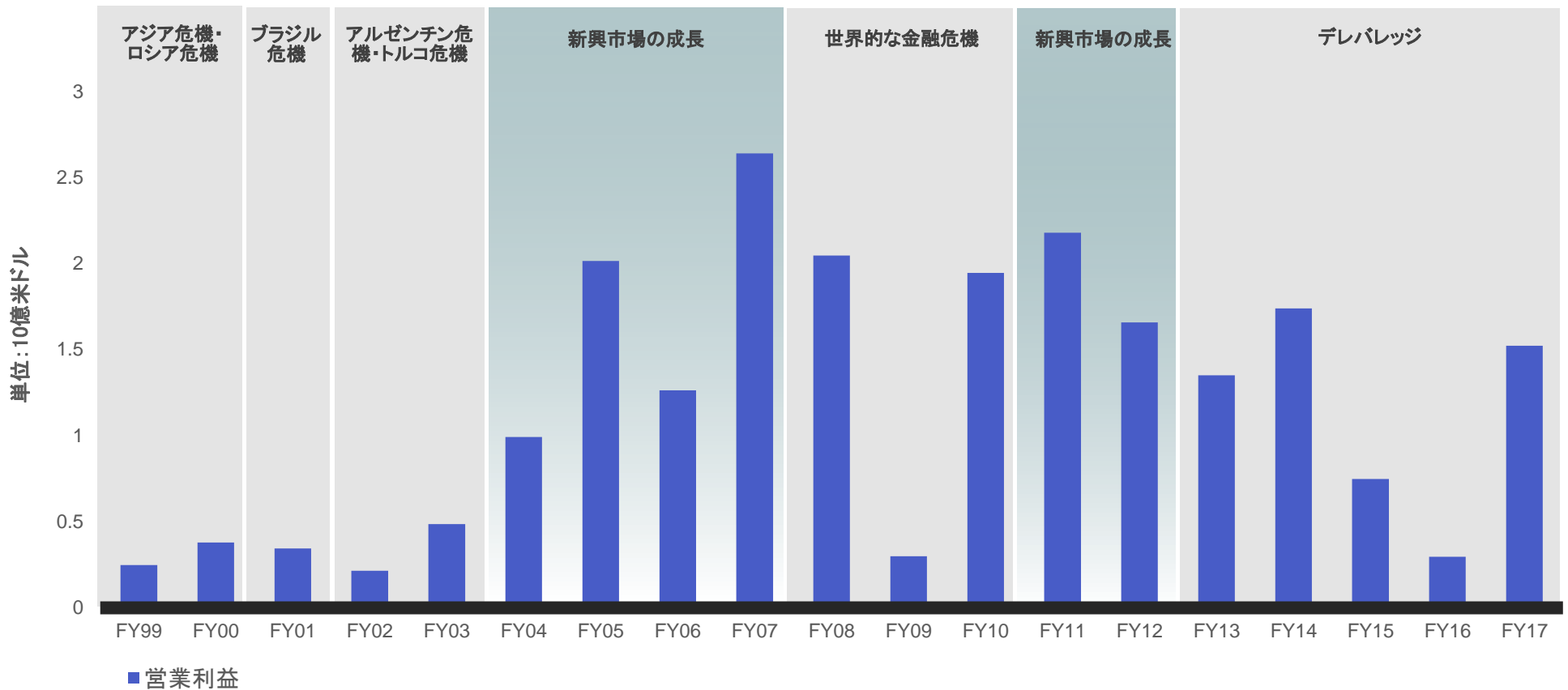
資金調達および流動性比率の指標は、IFCが市場ストレス状況下でも、資本市場へのアクセスなしに少なくとも1年間はそのマンドートを果たすことができることを示している。

スタンダード&プアーズ | 2017年6月27日

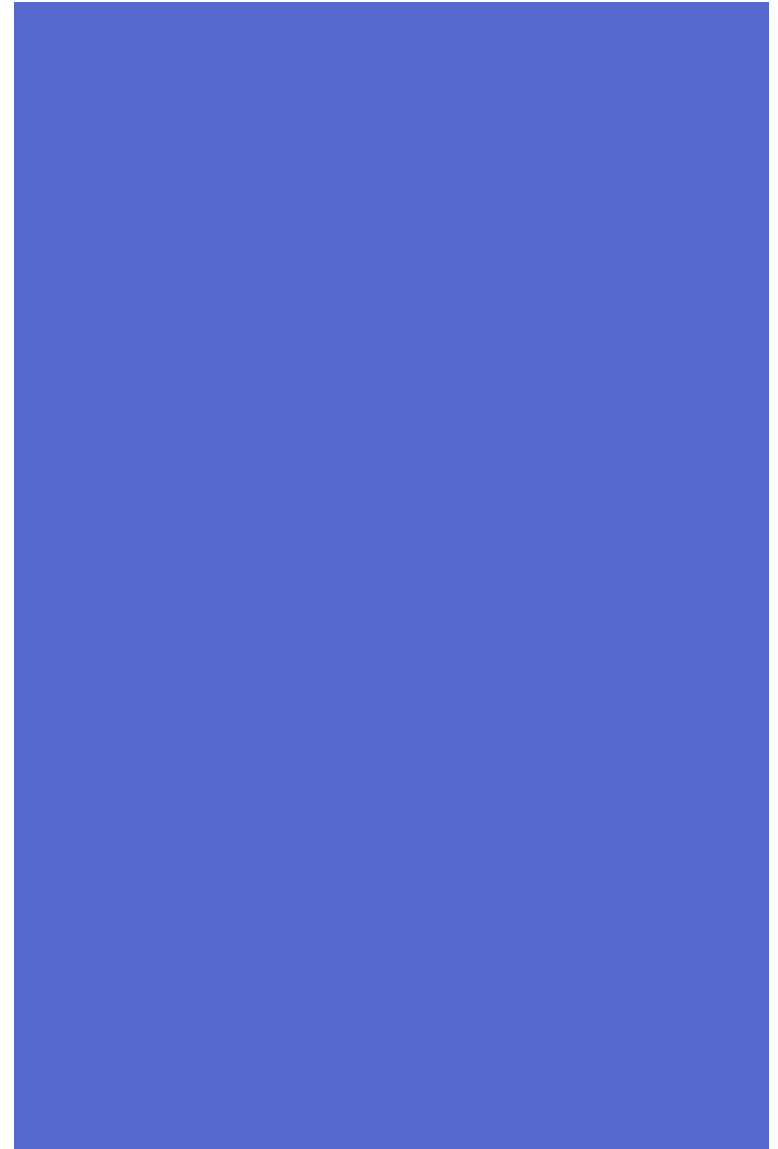
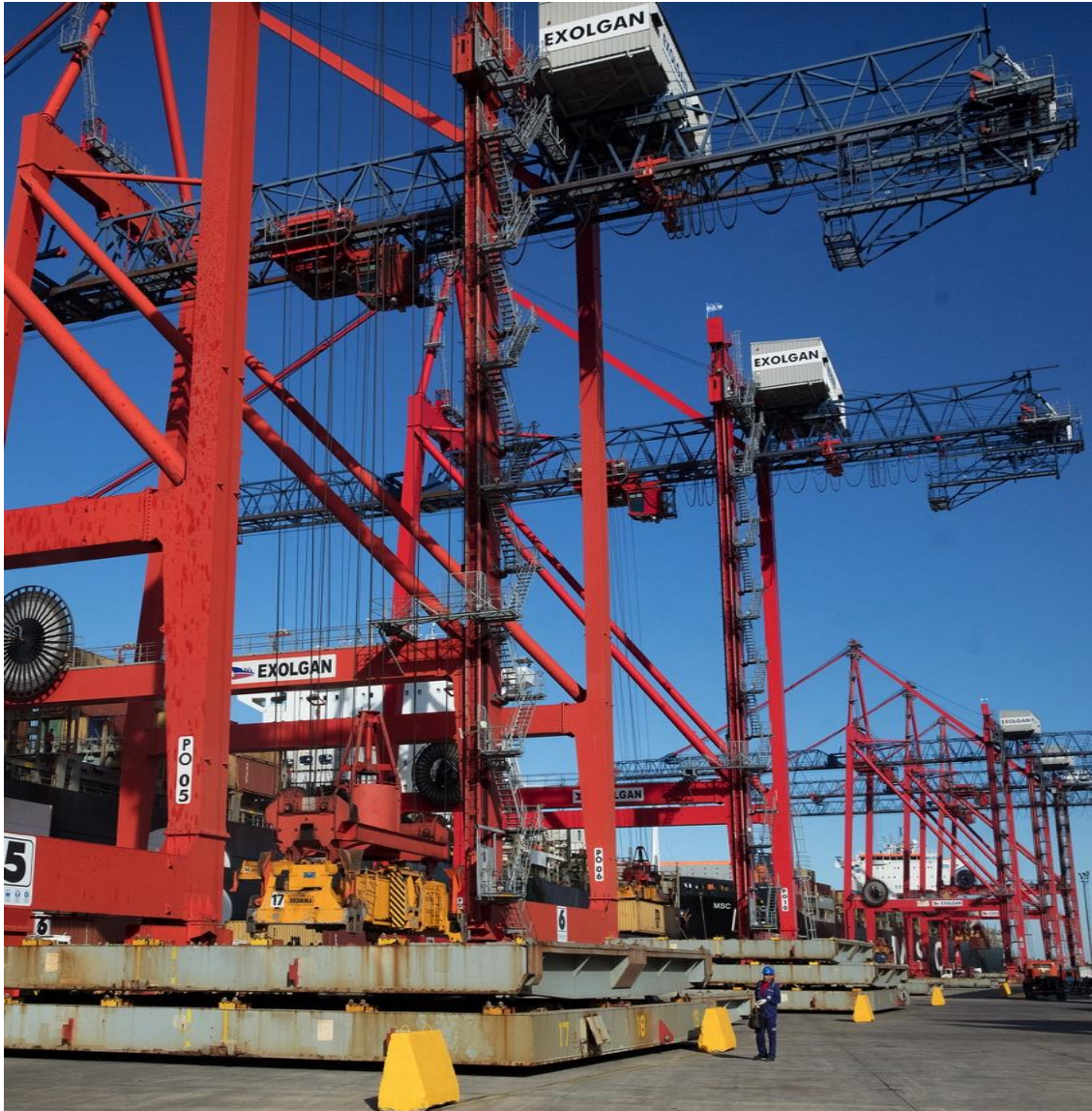
収益実績



IFCは1956年の設立以来、毎年営業利益を計上



コア・ビジネス・ポートフォリオ



ポートフォリオリスク管理



- ・ リスクベースの貸付金利設定
- ・ 貸付にマッチした資金調達を行い、通貨、金利、マチュリティーリスクを管理
- ・ 厳格な投融資ポートフォリオの分散化ガイドライン
- ・ 与信集中リスクの削減

IFCの高い信用力の源泉の一つは、高度に分散したポートフォリオに由来する。この点は、民間セクターあるいは公的セクターへの融資を行う類似の国際開発金融機関(MDBs)に比べ与信集中リスクを低くしている。

ムーディーズ | 2017年11月29日

企業別

個別信用格付に基づき取引先および関連取引先グループに対するリスクベースの上限を設定

リスク・セクター別

ファイナンスおよび保険エクスポージャー総額に上限を設定し、セクターに対する経済資本を国に対する上限の50%に制限

国別

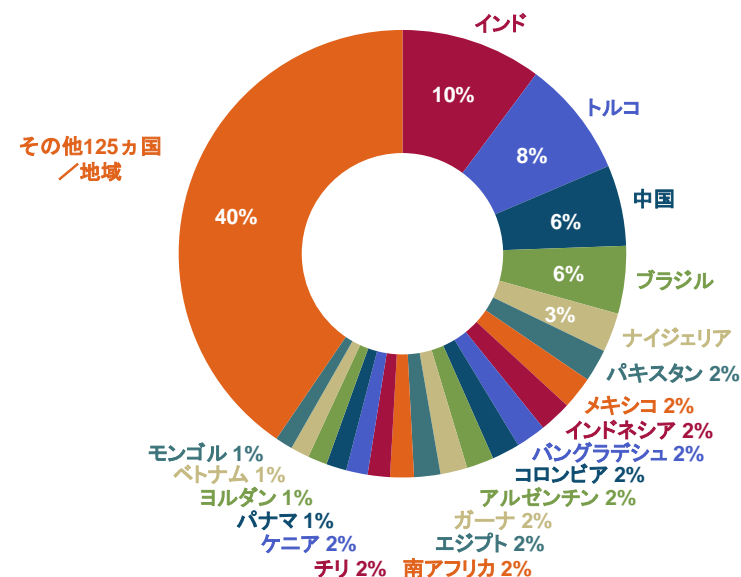
カントリーエクスポージャーとして経済資本に基づく上限を設定

高度に分散したグローバル・ポートフォリオ

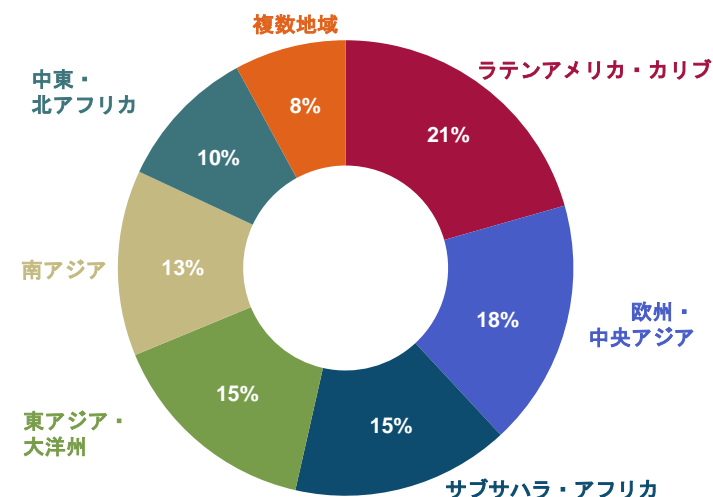


- 世界125カ国、2,000社超の企業に投融資エクスポージャーを保有
- 投融資は技術協力や外部資金動員と相まって民間セクターの発展促進を支援
- 上位5カ国のエクスポージャーがポートフォリオ全体に占める割合は**32%**
- 上位10カ国のエクスポージャーがポートフォリオ全体に占める割合は**43%**

コミット済ポートフォリオの国別内訳



コミット済ポートフォリオの地域別内訳



IFCの目的に則したエクスポージャーは、国別およびセクター別の両方で適切に分散されている。

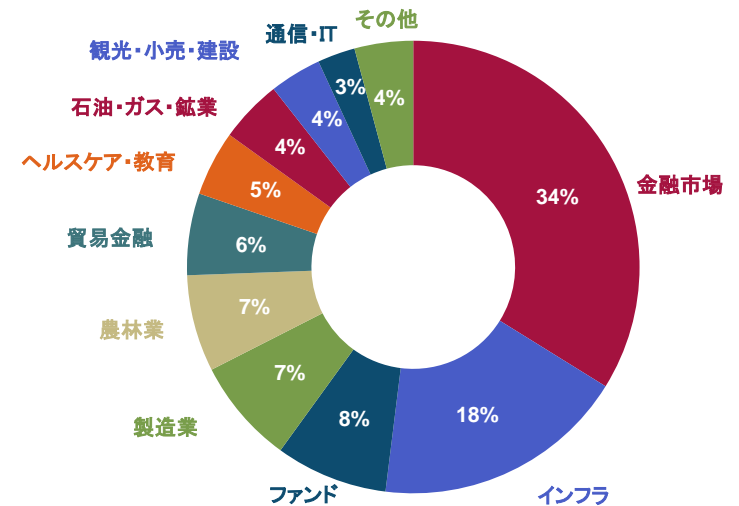
スタンダード&プアーズ|2017年6月27日

多様化した産業別ポートフォリオ



- IFCのポートフォリオは幅広い産業・セクターへ多様化している。
- 金融仲介機関への投融資を通じて、IFC単独では難しい零細・中小企業支援も可能にしている。

コミット済ポートフォリオの産業別内訳



良質なローンポートフォリオ

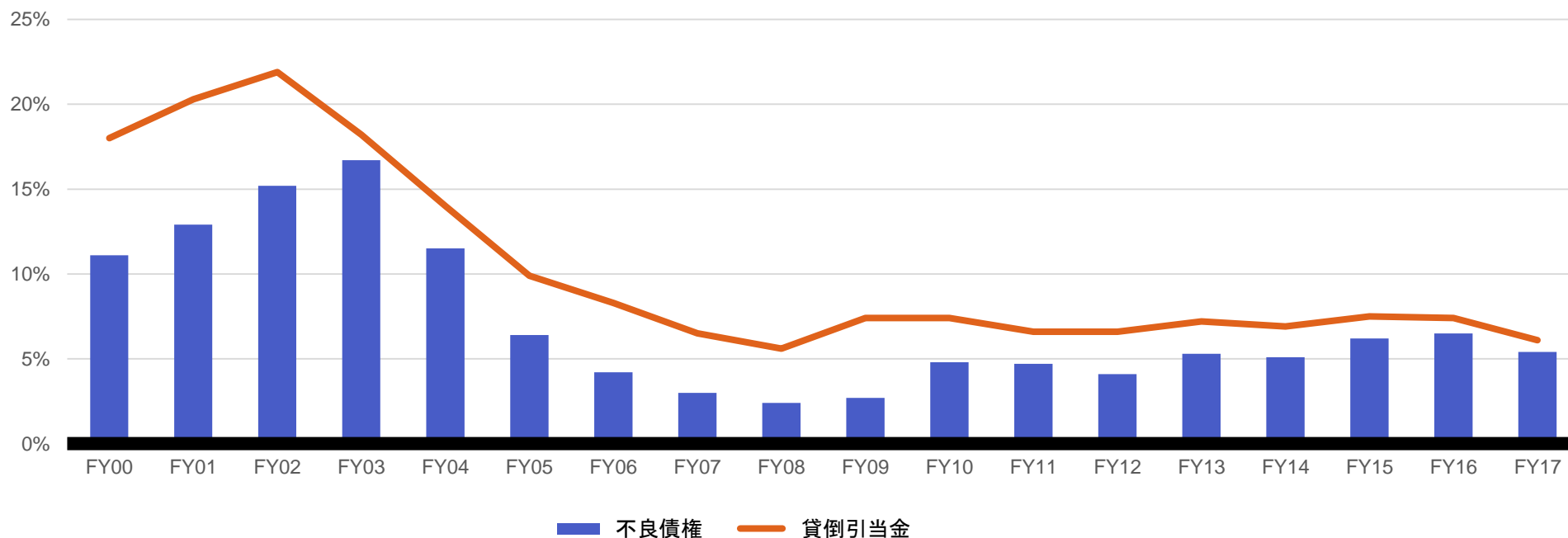


- 低い不良債権比率：60日以上延滞債権を不良債権と分類
- 四半期ごとにポートフォリオ全体をレビュー
- 貸倒引当金の総額は実行済ローンポートフォリオの6.1%
(14.8億米ドル) (2017年6月30日現在)

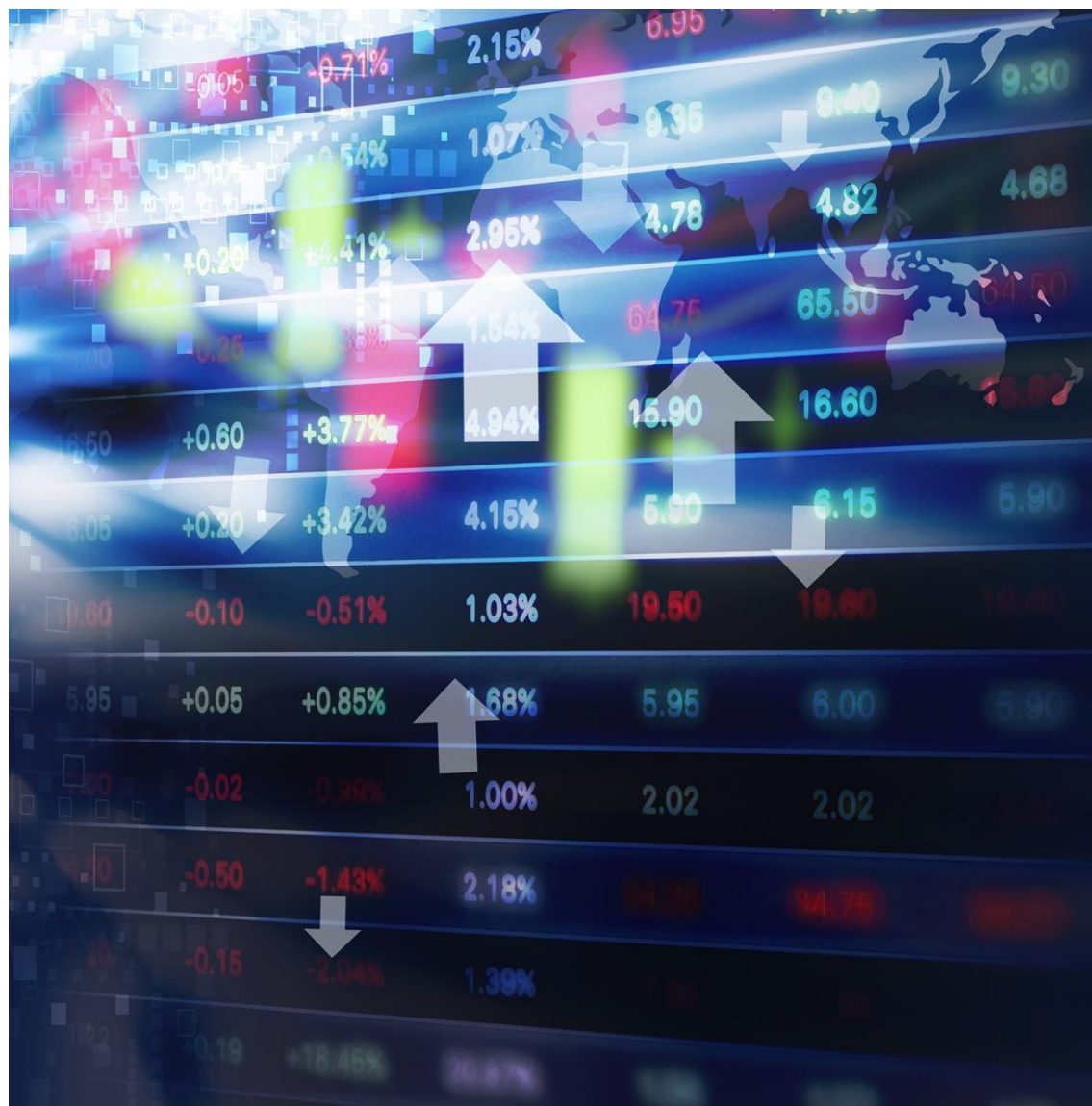
民間債務者が為替管理の適用対象となるときに、IFCは為替管理の適用から除外されてきた。

スタンダード&プアーズ| 2017年6月27日

実行済ローンポートフォリオに対する割合 (%)



資金調達プログラム

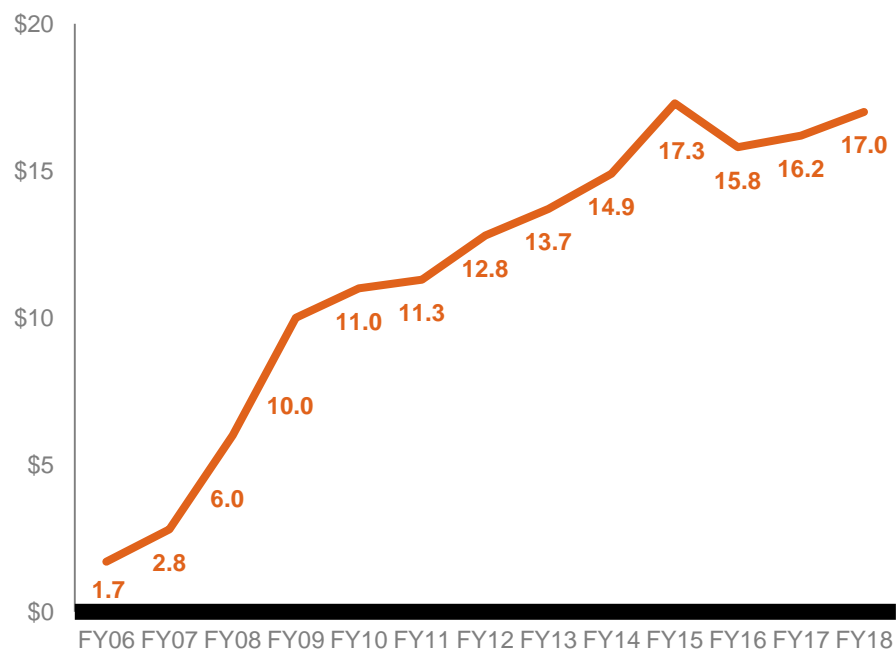


IFCの資金調達プログラムの拡大



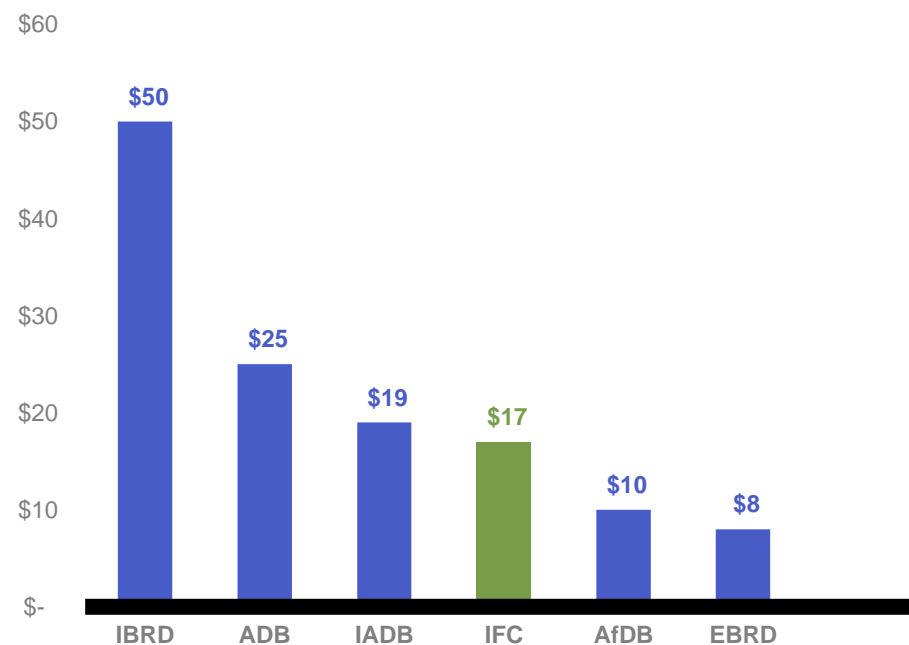
近年、IFCのバランスシート拡大に伴い、資金調達プログラムも増額。

IFCの年間資金調達額



* 2018年度 (FY18) 分は目標値

IFCおよび他の国際機関の現行資金調達プログラム



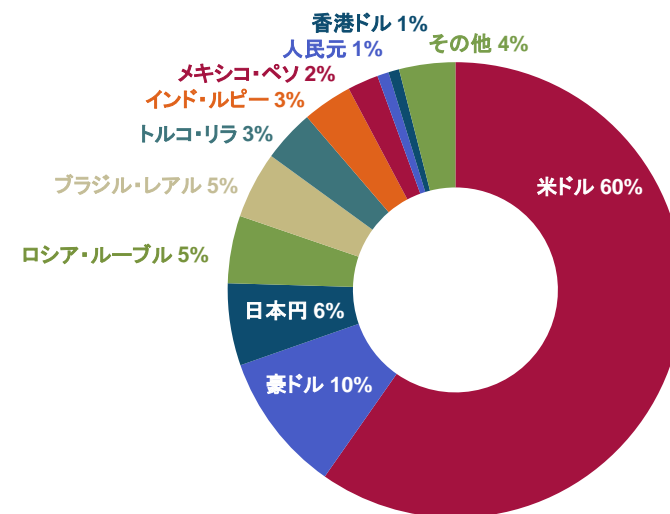
上記の数値単位は特段の断りがない限り10億米ドル単位

多様な市場、通貨による資金調達

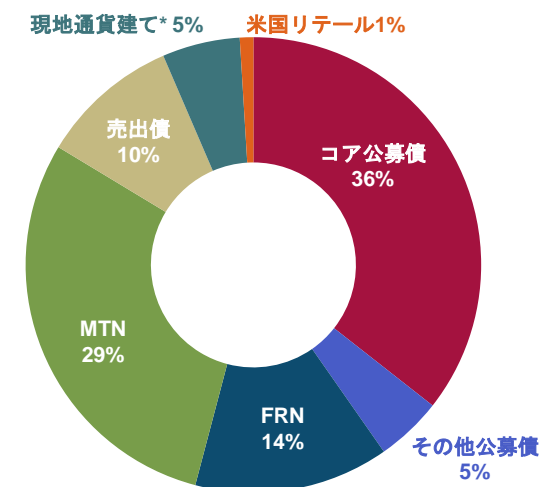


- IFCは2000年以降、グローバル・ベンチマーク債を毎年発行
- IFCは公募債発行による資金調達を、グリーンボンド、売出质、私募債、割引債のような多種多様な市場にアクセスすることで補完
- 中国、インド、ドミニカ共和国、ナイジェリア、ペルー、ザンビア、ルワンダ、ナミビアおよびその他国々における初めての非居住者発行体
- 米ドル建て融資を基本とする開発金融機関として、借入の大部分は米ドル建て変動金利にスワップ

通貨別の調達内訳 (FY17)



市場別の調達内訳 (FY17)



* オンショアの現地通貨建て取引を含む

米ドル建てグローバル・ベンチマーク債市場



世界トップクラスの信用力

- IFCは2000年以降、米ドル建てのベンチマーク債をグローバル形式で発行
- 起債のタイミング、主幹事の選定、適正なプライシング、公平な配分、流通市場での安定したパフォーマンスを重視
- 現在の米ドル建てグローバル債の発行残高は7本、総額185億米ドル

グローバル・ベンチマーク債のプライシング:

- IFC 1.125% 2021年7月償還、25億米ドル、m/s + 20bps, T+17.45bpsでローンチ
- IFC 1.625% 2020年7月償還、22.5億米ドル、m/s + 2bps, T+16.2bpsでローンチ
- IFC 1.750% 2019年9月償還、30億米ドル、m/s + 1bps, T+14.3bpsでローンチ

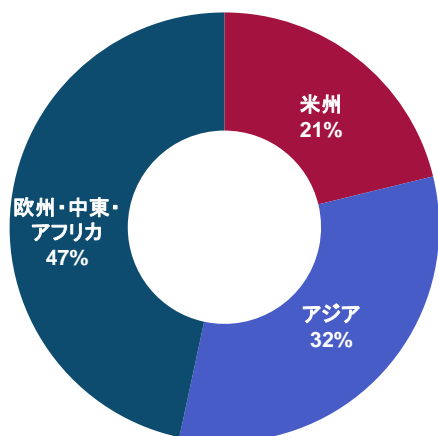
最近のSRIベンチマーク債のプライシング:

- グリーンボンド – IFC 2.0% 2022年10月償還、10億米ドル、m/s + 3bps, T+11.8bpsでローンチ
- ソーシャルボンド – IFC 1.75% 2020年3月償還、5億米ドル、m/s – 5bps, T+ 22.3bpsでローンチ
- グリーンボンド – IFC 2.125% 2026年4月償還、7億米ドル、2016年3月 m/s + 44bps, T+29.5bpsでローンチ; 2016年7月 m/s + 31bps, T+22.25bpsで5億米ドル増額発行

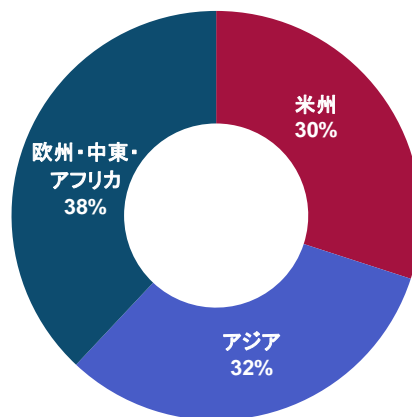
米ドル建てグローバル・ベンチマーク債の販売状況



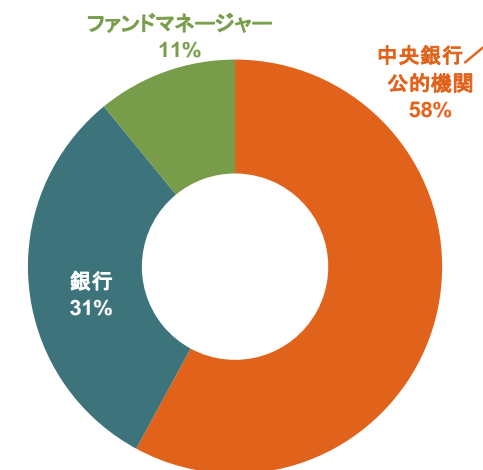
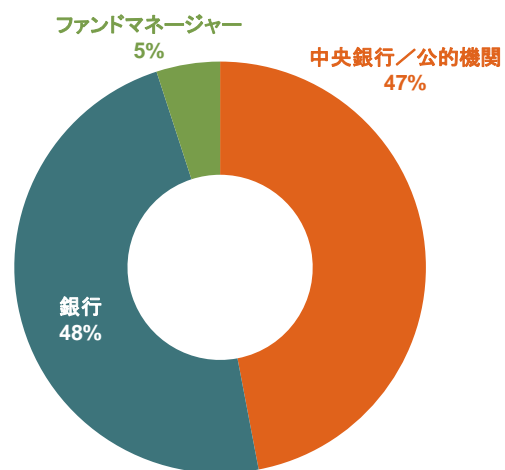
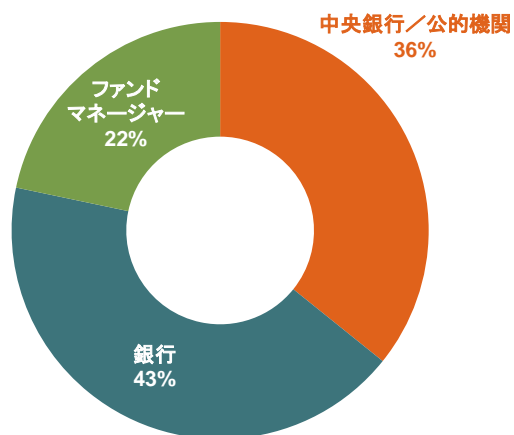
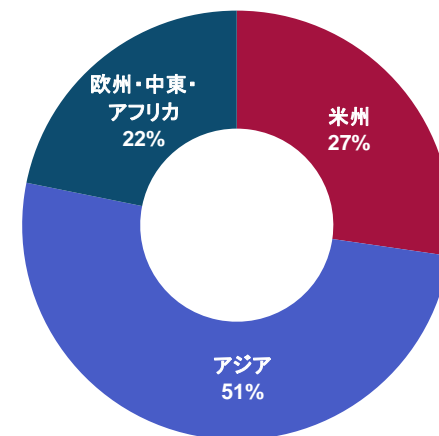
30億米ドル、2019年9月償還
(2014年7月発行)



22.5億米ドル、2020年7月償還
(2015年7月発行)



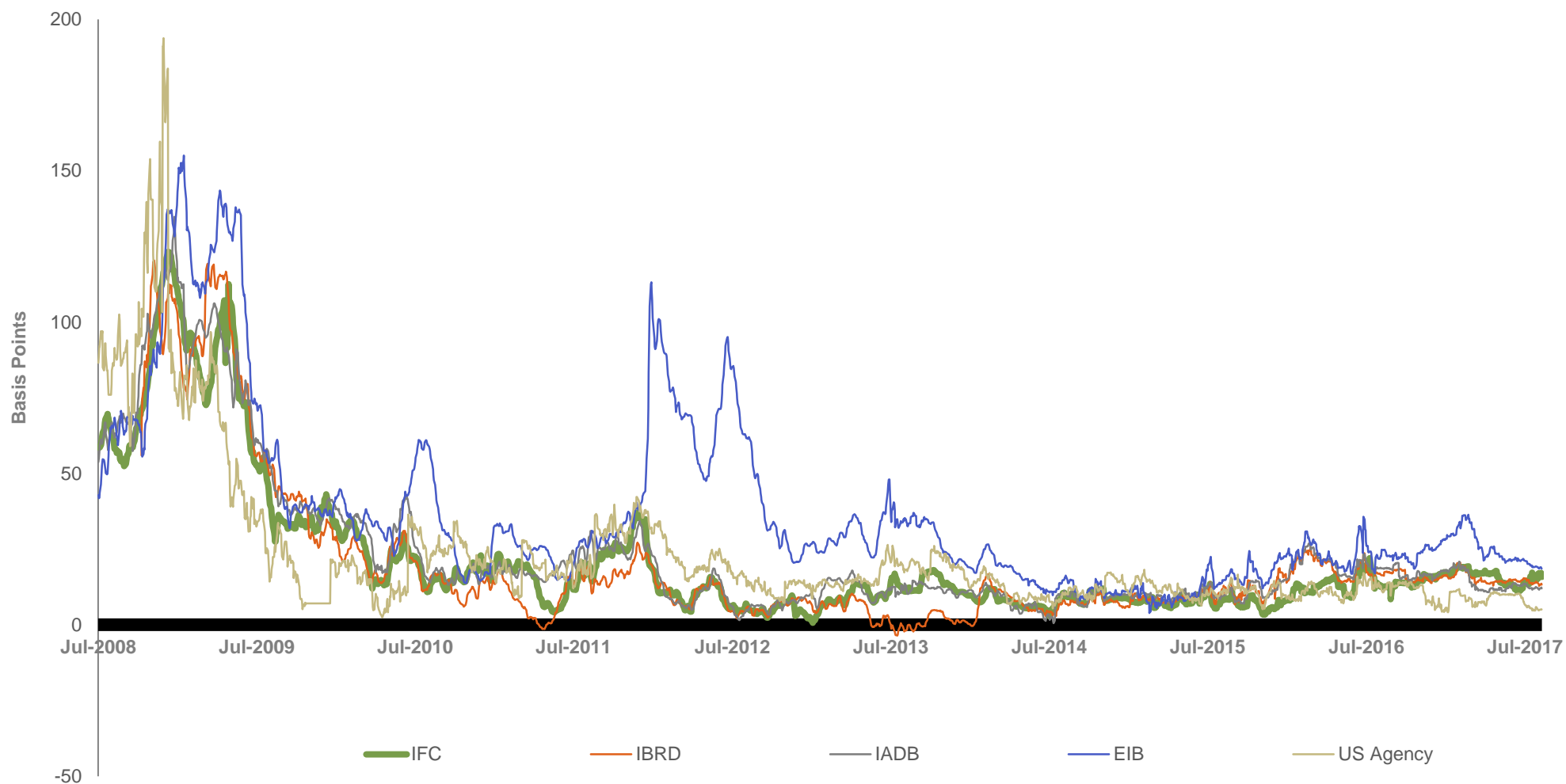
25億米ドル、2021年7月償還
(2016年7月発行)



米ドル建てグローバル・ベンチマーク債：米国債に対するパフォーマンス



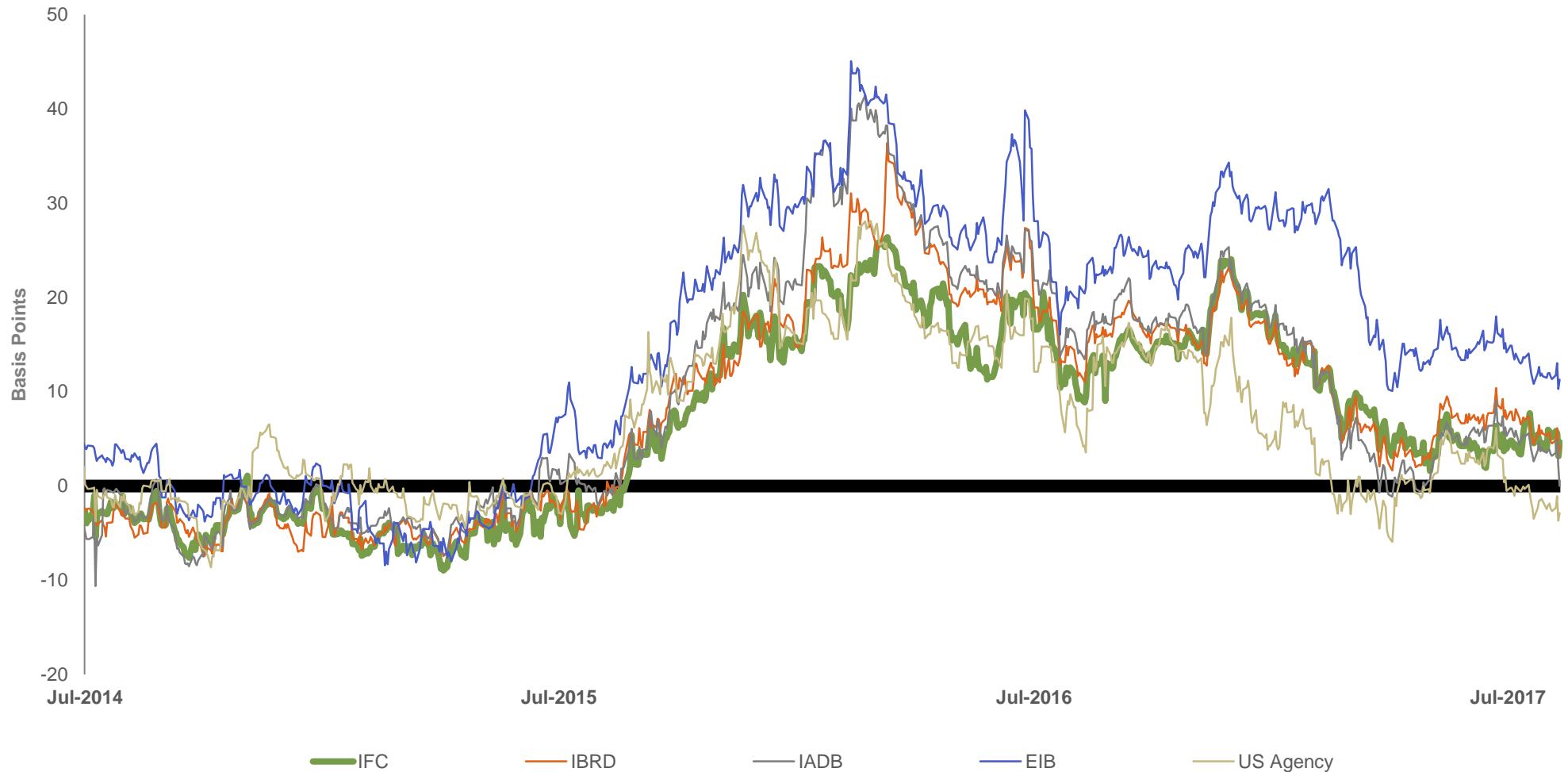
IFCおよびその他の国際機関のベンチマーク債(5年)の対米国債スプレッド



米ドル建てグローバル・ベンチマーク債: スワップレートに対するパフォーマンス



IFCおよびその他の国際機関のベンチマーク債(5年)の対ミッド・スワップスプレッド

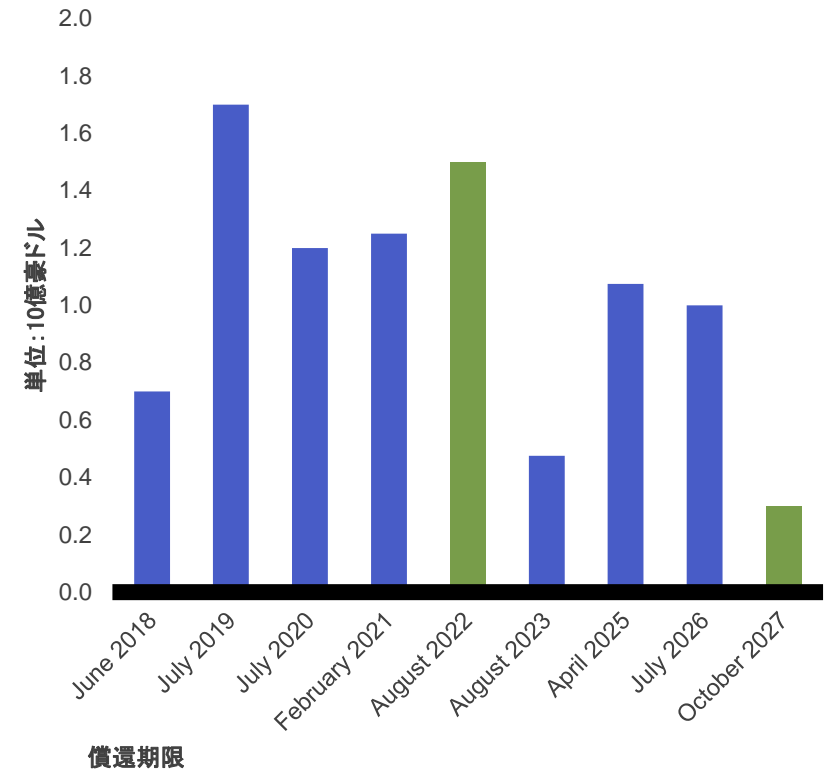


豪ドル建て国内債券市場(カンガルー債)



- 豪ドル債はIFCにとって重要な市場
 - 成長する国際的投資家層に向けた魅力的な条件での資金調達
- 豪ドル債市場へのIFCのコミットメント:
 - 2007年、豪ドル建て国内債発行プログラムを設定
 - カンガルー債発行残高: 90億豪ドル(2017年11月現在)
- IFC債は豪国債に対する魅力的なイールド・ピックアップを提供
- IFCの豪ドル建て国内債はオーストラリア準備銀行(RBA)とのレポ取引適格債券

IFCカンガルー債発行残高

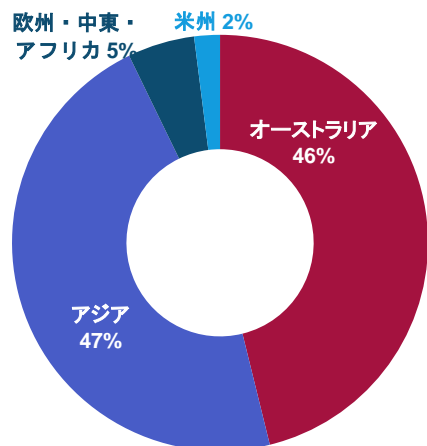


* Aug 2022 and Oct 2027 – 最も最近にローンチした銘柄

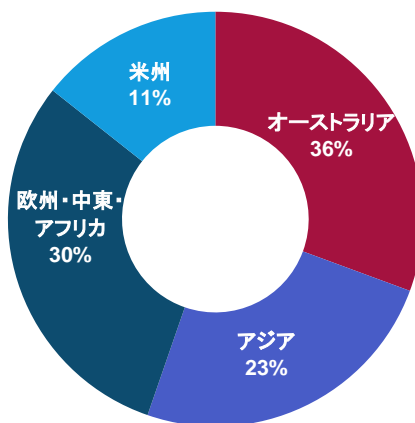
カンガルー債の販売状況



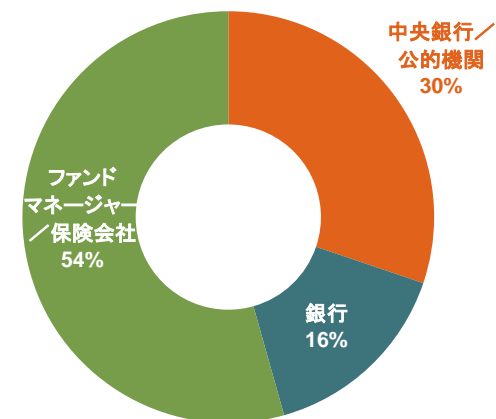
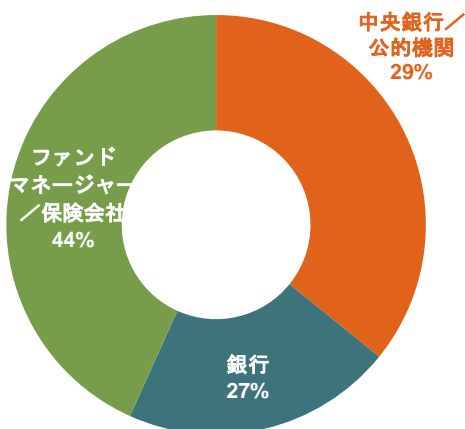
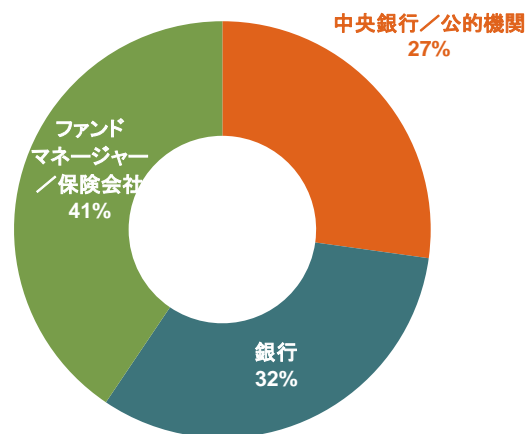
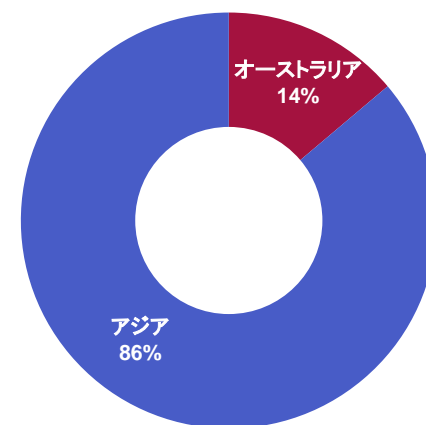
13億豪ドル、2021年2月償還
(2015年7月発行)



15億豪ドル、2022年8月償還
(2017年2月発行)



10億豪ドル、2026年7月償還
(2016年1月発行)

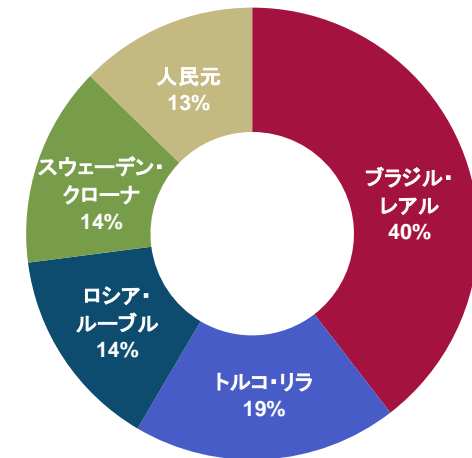


その他の公募債市場



- ・ 2017年度(FY17)はその他の公募債市場で総額6.35億米ドルを調達
- ・ IFCは新規発行および追加発行を通じて、**その他の公募債市場**におけるIFCのプレゼンスを拡げること注力
- ・ ブラジル・レアル、南アフリカ・ランド、ロシア・ルーブル、人民元、トルコ・リラ等の公募債市場でも確立された調達実績
- ・ IFCはインド・ルピー建て債において15年までのイールド・カーブを確立、人民元の国際化も継続的に支援

2017年度(FY17)通貨別内訳

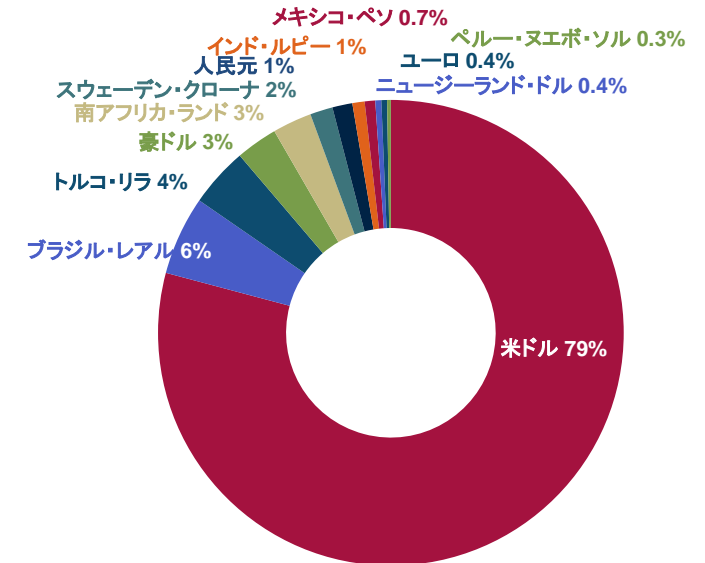


グリーンボンド

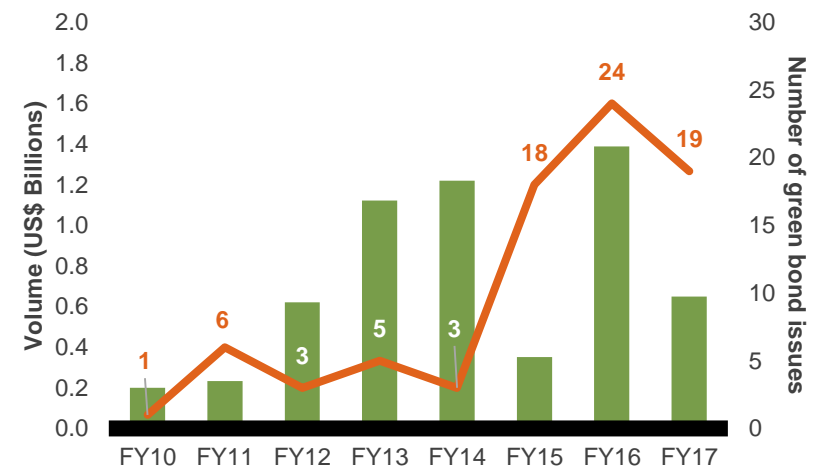


- IFCは2010年にグリーンボンドプログラムを立ち上げ、2017年度末までに以下を含む79件のグリーンボンド発行により58億米ドルを調達：
 - 2013年2月および11月、グリーンボンド市場初となるベンチマーク規模の債券発行
 - 初の米国個人投資家向けグリーンボンドプログラム
 - 年限10年までのイールドカーブ形成
 - 人民元、南アフリカ・ランド、インド・ルピーなど新興国通貨建てグリーンボンドの発行
- IFCは「グリーンボンド原則（GBP）」創設メンバーであり、現在もその執行委員会のメンバー
- 2015年以降、IFCは国際金融機関間で調整したインパクト・レポートの枠組みに基づき、毎年グリーンボンド・インパクト・レポートを公表

通貨別のグリーンボンド発行内訳



年度別グリーンボンド発行額および本数



ソーシャルボンド



- IFCのソーシャルボンドは、途上国において基礎的サービスや所得創出等へのアクセスが十分でない住民層を対象に、それらの拡充を目的としたIFCプロジェクト向け投資の機会を投資家に提供
- ソーシャルボンドプログラムは、2つの既存テーマ債商品（女性起業家支援のための債券プログラムおよびインクルーシブ・ビジネスボンド・プログラム）を統合
- IFCは2017年にソーシャルボンドプログラムを立ち上げ、公募債、私募債、売出張市場で発行、2017年3月には機関投資家の需要に応える形で5億米ドルの市場初となる米ドル建てソーシャルボンド・ベンチマーク債を発行
- IFCのソーシャルボンドプログラムは、ソーシャルボンド原則（SBP）事務局を務める国際資本市場協会（ICMA）が2017年6月に公表したSBPに準拠、IFCは現在SBPワーキング・グループの共同リード役を務める

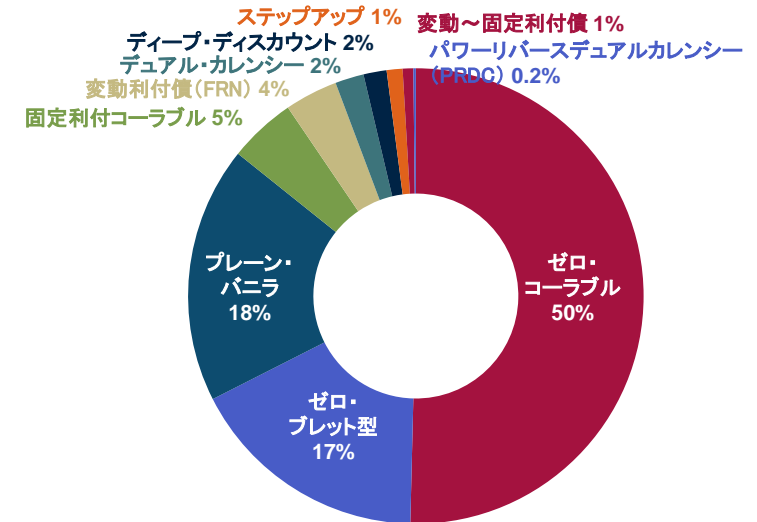


MTNと仕組債

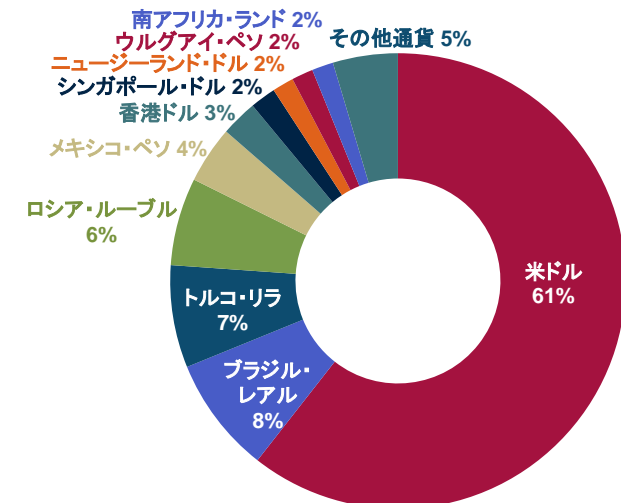


- ・ IFCはプレーンバニラ債および仕組債の活発かつ柔軟な発行体としてのポジションを維持する方針
- ・ IFCは現在、以下の債券を発行：
 - ・ 金利連動債、為替連動債、株価指数連動債、コモディティリンク債、変動利付債（FRN）、バミューダおよびヨーロッパ・コーラブル債、ハイブリッド債
 - ・ 最低発行規模は3百万米ドル相当、年限は1～30年
- ・ 2017年度（FY17）のMTN発行総額は20通貨建てで40億米ドル
- ・ IFCは流動性のバックストップとしての役割を果たすため活発な買戻し（バイバック）プログラムを実施

2017年度（FY17）債券種類別内訳



2017年度（FY17）通貨別内訳

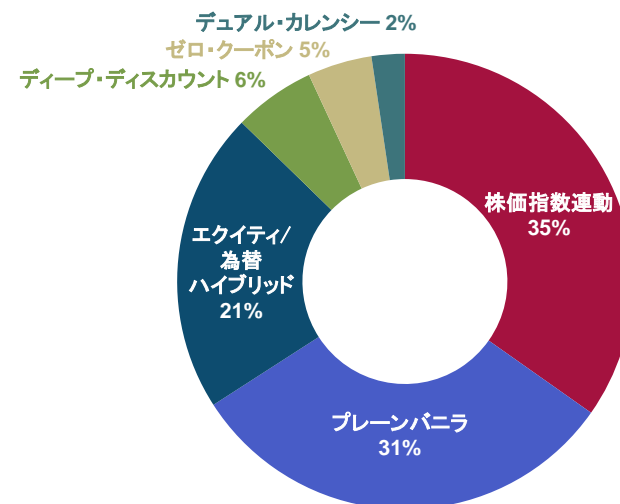


売出債

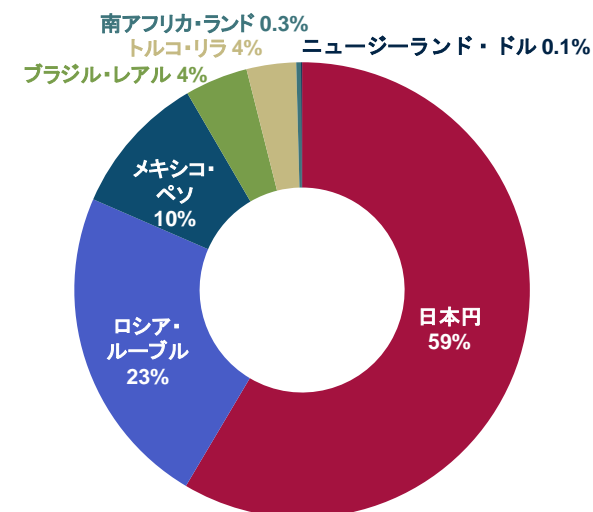


- 日本からの資金調達はIFCの資金調達全体の10%以上を占め、そのうち通常6%程度が売出債による調達
- 東京およびシンガポールに財務部門の職員を配置し、リテール投資家への認知度向上に注力
- これまで、グリーン、ソーシャル、女性起業家支援、インクルーシブビジネスの各テーマ債を販売
- 2017年度(FY17)は53本の売出債を発行(総額13億米ドル相当)、資金調達の約10%を占める
- IFCは最小単位1億円相当からの売出債買戻し(バイバック)プログラムを実施

2017年度(FY17)債券種類別内訳



2017年度(FY17)通貨別内訳



米国リテール市場債券プログラム



インパクトノートプログラム

- 2014年3月、米国リテール市場へ債券を提供するため、IFCインパクトノートプログラムをローンチ
- 同年限の米国債よりも魅力的な利回りを提供することにより、政府支援機関(GSEs)債への代替投資手段
- 2014年9月、グリーンボンドの発行を開始し、現在は本プログラムの下でグリーンボンド形式での発行が主

アクセレレーテッド・リターンノート(ARN)プログラム

- 2016年10月、ARNプログラムをローンチ、米国リテール市場へ株価指数連動債を提供
- 米国の主要株価指数に連動する債券として月次で発行:株価上昇に対して3倍、下落に対して1倍のエクスポージャー(償還期間14ヵ月)
- 2017年度(FY17)の債券発行額は1億米ドル相当:ラッセル2000およびMSCI新興国指数に連動

割引債プログラム



- 2009年6月、グローバルMTNプログラムを補完し、短期の現地通貨建ファイナンス利用を拡大する目的でローンチ
- 米ドル、人民元、トルコ・リラ建ての質の高い短期投資機会を提供
- 2017年度は総額126億米ドルを割引債プログラムの下で発行: 米ドル125億ドル、人民元1.5億元
- 2018年度(FY18)は30億米ドルが発行上限

- 米ドル、人民元またはトルコ・リラ建て
- 期間は翌日物から360日まで
- 最低金額は10万米ドル
- ディーラー10社を通じてオファー
- 証書なしの帳簿記載方式による発行
- IFCの財務代理人: ニューヨーク連銀
- Fedwireを通じた決済
- ブルームバーグ・ティッカー: IFC<go>2 および ADN<go>8

現地資本市場の発展に向けた取り組み



ラテンアメリカ

Dominican Republic – Taino Bond

2016 – DOP 180 million due 2023

Costa Rica – Irazu Bond

2014 – CRC 5 million due 2019

Dominican Republic – Taino Bond

2012 – DOP 390 million due 2017

Brazil – Amazonian Bond

2007 – BRL 200 million due 2011

Peru – Inca Bond

2004 – PEN 50 million due 2007

Colombia – El Dorado Bond

2004 – COP 269 billion due 2006

2002 – COP 125 billion due 2007

2002 – COP 225 billion due 2007

ヨーロッパ

Georgia – Iveria Bond

2015 – GEL 30 million due 2017

Armenia – Sevan Bond

2013 – AMD 2 billion due 2016

Russia – Volga Bond

2012 – RUB 13 billion due 2017

アフリカ

Namibia – Namib Bond

2016 – NAD 180 million due 2021

South Africa – ZAR Green Bond

2015 – ZAR 1 billion due 2024

Rwanda – Twigire Bond

2015 – RWF 3.5 billion due 2018

Rwanda – Umuganda Bond

2014 – RWF 15 billion due 2019

Nigeria – Naija Bond

2013 – NGN 12 billion due 2018

Zambia – Zambezi Bond

2013 – ZMW 150 million due 2017

CFA Franc – Kola Bond

2009 – XAF 22 billion due 2014

2006 – XOF 22 billion due 2011

Morocco – Atlas Bond

2005 – MAD 1 billion due 2012

中東

Sukuk al Wakala

2015 – USD 100 million due 2020

Gulf Cooperation Council – Hilal Sukuk

2009 – USD 100 million due 2014

インド

Masala Uridashi Bond

2016 – INR 300 million due 2019

Masala Bond

2017 – INR 22.9 billion due 2022, 2024

2016 – INR 8.6 billion due 2024, 2031

2015 – INR 31 billion due 2018, 2019

2013, 2014 – INR 72 billion due 2016, 2019, 2021, 2024

Maharaja Bond

2016 – INR 1 billion due 2033, 2034

2014 – INR 6 billion due 2019, 2024, 2027-2034

Green Masala Bond

2015 – INR 3 billion due 2020

中国

Dim Sum Bonds

2014 – CNH 1 billion due 2019

2014 – CNH 500 million due 2017 (Green)

2014-2015 – CNH 4.7 billion due 2017

2012 – CNH 500 million due 2014

2011 – CNH 150 million due 2016

Panda Bonds

2006 – CNY 870 million due 2013

2005 – CNY 1.3 billion due 2015













マレーシア

Wawasan-Islamic Bond

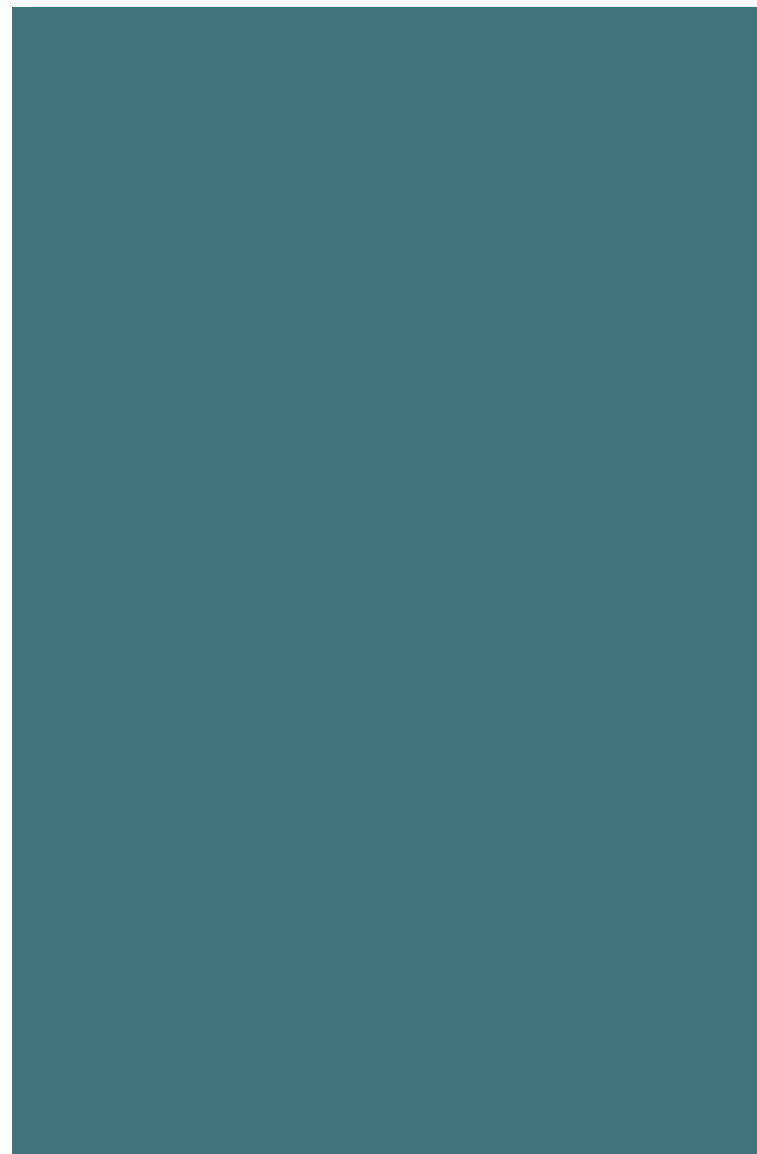
2004 – MYR 500 million due 2007

受賞歴(2016-2017)



<p>2017</p>  <p>MTN Issuer of the Year</p>	<p>2017</p>  <p>Most Innovative Issuer</p>	<p>2017</p>  <p>Best SRI Bond: IFC \$700MM 2.125% April 2026 green bond</p>	<p>2017</p>  <p>Asia Structured MTN Issuer of the Year</p>
<p>2016</p>  <p>Best Supranational Borrower</p>	<p>2016</p>  <p>Best Local Currency Green Bond: IFC ZAR Green Bond</p>	<p>2016</p>  <p>Best Supranational Sukuk</p>	<p>2016</p>  <p>Best Green Bond Facility</p>
<p>2016</p>  <p>Green Bond Awards: First \$1 billion Benchmark Issuance</p>	<p>2016</p>  <p>Market Initiative of the Year: Impact Reporting</p>	<p>2016</p>  <p>Special Award for Innovation: IFC/Yes Bank</p>	<p>2016</p>  <p>Best Niche Currency Issuer</p>

付属資料



農林業-サブサハラアフリカ



- コートジボワールのカカオ農家にとって、課題は地域のバイヤーにカカオ豆を運ぶことです。同国のカカオ協同組合は長い間新しいトラックを買うための資金がなく、遠隔地の農民からより多くのカカオを運搬することができませんでした。銀行はカカオ協同組合に融資するのはリスクが高すぎると考え、利用可能な資金は短期、高金利の融資に限られていました。
- 2016年、IFCは地方の農業協同組合に新しいトラックへの投資を可能にする利用可能な融資を提供するため、カカオの加工・貿易業者であるCargill社と協力することにしました（Doni Doniプロジェクト）。Doni Doni融資の金利はその他の利用可能な融資に比べ低利です。それら融資はIFC、CargillおよびSociété Ivoirienne de Banqueが共同で貸付リスクをシェアするファシリティーを通じて組成されます。
- このプロジェクトは農業組合に4百万米ドル超の融資を提供し、彼らが130台以上の新しいトラックを購入することを支援しました。より有利な条件での融資へのアクセスは農民が資金を蓄えることを助け、経済的にもより改善します。同国の56のカカオ協同組合に属する7万人以上の農民が、家族や地域社会と共に、このプロジェクトから恩恵を受けています。



*With support from IFC, Cargill launched a project in 2016 to make affordable credit available to Ivoirian farmer cooperatives, enabling them to invest in new trucks.
© Anna Koblanck/IFC*

インフラ-中東



- 石油・ガス資源に乏しいヨルダンは2020年までに電力の20%を再生可能エネルギーで賄うことを目指しています。政府はクリーンエネルギーの非常に大きな潜在的可能性がヨルダンの未来を変え则认为、持続的な開発のための方策を行っています。
- Tafila風力発電（Tafila Wind Farm）は同国で実施される初の民間融資による再生可能エネルギープロジェクトです。IFCはTafila実現に重要な役割を果たし、ベストプラクティスを保証しプロジェクトが融資可能となるために必要な規制・法制改革を政府が実行することを支援しました。さらに、IFCは発電設備のための221百万米ドルの融資パッケージを取りまとめました。この融資はヨルダンの再生可能エネルギー産業の発展およびグリーンパワーのための市場創設へのIFCの大きな取り組みの一部です。
- 117メガワットのTafila風力発電所は8万世帯へ電力供給が可能です。しかしながら、この発電所のより大きな意義は他の国家再生可能エネルギープロジェクトへの途を切り拓いたことです。Tafila以降、政府と民間セクターは同国における風力、太陽光発電分野において16億米ドルの投資を行うことに合意しました。Tafilaプロジェクトはヨルダンをクリーンエネルギーにおける強力なプレイヤーに変革する扉を開きました。



The Tafila Wind Farm can power 80,000 homes, helping transform Jordan into a clean-energy powerhouse.

© Dominic Chavez/IFC

ヘルスケア・教育-ラテンアメリカ



- 一連の教育改革により、ブラジルは今や就学生8百万人、潜在的市場として35百万人を持つ高等教育における最も大きな市場の一つです。高等教育に対する需要は主に民間セクターにより満たされていますが、就学は発展の遅れた地域では依然遅れています。
- Ser Educacionalはブラジルで6番目に大きい私立の教育機関で、低コストで市場関連教育を提供する中等教育後の教育機関で構成されています。その教育プラットフォームには8つの機関が属していて、職業技能、大学学部、大学院の各種学位を提供し、低所得層の生徒たちが学位を取得し、生涯稼得所得を改善し貧困の罠から抜け出すことを可能にします。
- 2010年以降、IFCはSerの事業拡大に3件、総額55百万米ドルの投資を行いました。融資は新たなキャンパスの開設および取得、既存キャンパスの改修およびSerの遠隔ラーニング・プラットフォームの開発に使用されています。また、IFCはSerのIPO（新規株式公開）のアンカー投資家となり、Serが長期戦略ビジョンを実行するのを支援しました。
- 2013年の株式公開後、Serは市場の期待を上回り続けています。2017年6月現在、Serの教育機関で学ぶ学生数は158,000名、教員は4,700名おり、20の州にある64カ所のキャンパスで学んでいます。学生の多くは低・中所得層の若者で働きながら学んでおり、その多くは家族で初めて大学の学位を取得しています。



*Most students at Ser Educacional work while attending classes; many are the first in their families to obtain university degrees.
© Ser Educacional*

運輸-ヨーロッパ・中央アジア



- イスタンブールにはトルコの人口の約20%が居住しており、2023年までには居住者が約3百万人増加する見込みです。人口増加はイスタンブールのインフラ設備に大きな課題を投げかけています。環境的に持続可能な方法で人口増加に対応するため、イスタンブール市政府(MMI)は市内の交通手段を道路から鉄道に移行する計画です。
- 地下鉄網の拡張により市民の鉄道利用機会が増え、より環境負荷が低く効率的な通勤手段を選ぶことで交通渋滞の緩和につながります。この計画の実施にあたっては、東西を結ぶ路線の強化とボスポラス海峡のヨーロッパ側にあるKabatas-Mediciyekoy地下鉄線の建設が不可欠です。
- IFCはIntesa Sanpaoloと協調融資団を組成し、5.3kmの Kabatas-Mediciyekoy地下鉄線と3つの新駅を建設するため、返済期間13年、総額120百万米ドルのシンジケートローンを提供し、自己勘定から65.3百万米ドルをコミットしました。イスタンブールの北部地区7ヵ所を走る路線の拡張により、既存の地下鉄4線が接続することになり、このプロジェクトはMMIの輸送に関する基本計画およびイスタンブールのインフラ整備に不可欠のものと位置づけられています。このプロジェクトでは平日の地下鉄利用を1日あたり45万回増加し、平均通勤時間を短縮し、都市内のモビリティと接続を改善することを目指しています。



IFC is supporting a new metro line that will add 450,000 daily passengers to Istanbul's metro system.

金融ソリューション-アジア



- 2020年度までにユニバーサルな金融アクセスを達成するという目標にコミットするため、IFCはインドにおけるファイナンシャル・インクルージョン(金融包摂)を戦略的優先課題のひとつとしています。インドでは民間セクターが金融サービスへのアクセス提供において主要な役割を果たしています。
- Bandhanはインドの西ベンガル州で非営利団体としてスタートしたマイクロファイナンス機関です。2015年、Bandhan Bank は非銀行利用者層に金融サービスへのアクセスを拡大する手助けを開始しました。2011年以降、IFCはBandhan の信頼されるパートナー、株主として29百万米ドルの出資を行っています。これはインドにおいてマイクロファイナンスの危機後、マイクロファイナンスにおける最大の民間セクター投資です。それ以降もIFCはBandhan へさらなる投融資を行い、総額は150百万米ドル近くにのぼります。Bandhan へのIFCの投資拡大は、同行が低所得の家計に焦点を絞ったユニバーサルバンクへの移行のため強力な株主支援を必要としていた時期にあたり、同社の発展にとって重要な時に行われました。
- 今日、Bandhanはインドで最も銀行利用が十分でない地域で主に女性向けに6.5百万人の借入人にサービスを提供しており、インド29州のうち22州で2,000を超える支店で業務を行っています。本格的な銀行への転換に伴い、Bandhanは20米ドル以上1,000米ドルまでの小規模な無担保ローンをより多くの農村、都市近郊の借入人や十分なサービスが受けられない顧客、とりわけ女性に提供することが可能になります。



*A loan from IFC client Bandhan enabled Sibiancy Kyriem to launch a successful clothing business.
© Bandhan*

連絡先



IFC財務部門



マネジメント

Jingdong Hua

Vice President and Treasurer
+1 202 473 1650
jhua@ifc.org

Andrew Cross

*Deputy Treasurer / Director
Treasury Market Operations*
+1 202 458 4850
across@ifc.org

コミュニケーションズ

Emma-Kate Symons

Senior Communications Officer
+1 202 813 7561
esymons@ifc.org

資金調達およびインベスター・リレーションズ

London

Elena Panomarenko

Senior Financial Officer
+44 207 592 8532
epanomarenko@ifc.org

Singapore

Flora Chao

Head of Funding
+65 6501 3636
fchao@ifc.org

Yuri Kuroki

Associate Financial Officer
+ 65 6501 3699
ykuroki@ifc.org

Tokyo

Kenichiro Shiozawa

Senior Financial Officer
+81 3 3597 6699
kshiozawa@ifc.org

Washington

Marcin Bill

Senior Financial Officer
+1 202 473 7364
mbill@ifc.org

Zauresh Kezheneva

Financial Analyst
+1 202 473 4659
zkezheneva@ifc.org

Esohe Denise Odaro

Investor Relations Officer
+1 202 473 0954
edodaro@ifc.org

免責事項



本資料は参考資料としての目的のみに作成されており、ここに含まれる情報は要約されたもの、または不完全なものである場合があります。IFCは、本資料の正確性や完全性に関していかなる保証も表明しておらず、本資料の更新義務も負いません。

本資料は目論見書ではなく、IFCが発行するいかなる債券の評価基準となるものではありません。この情報は、本資料に記載する商品やサービスの予約または購入を勧誘または提供するものではありません。本資料の使用に起因する直接的、間接的、偶発的、特別または必然的な損失、損害、負債、費用の請求に対しては、そのような損害の可能性についてIFCが報告を受けていた場合を含め、いかなる状況においても、IFCおよびIFCの関係機関は責任を負いません。

IFCに関するより詳しい情報については、IFCの最新の『インフォメーション・ステートメント』、財務諸表およびその他の情報が以下の投資家向けウェブサイトからご覧いただけます。

www.ifc.org/investors.

2018年1月